

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202197		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家 広田		
所在地	長崎県佐世保市広田3丁目9番1号		
自己評価作成日	令和7年10月15日	評価結果市町村受理日	令和8年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 7年12月 9日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・買い物や外食、日々の散歩等施設の外へ出かけることにより、地域との繋がりを保ち、張りのある生活を送れるよう援助している。</p> <p>・スタッフの学びたいという気持ちを大事にして、研修・受験にかかる費用を補助している。</p>
---

理念“夕暮れ時にも輝く人生”を基に、今年度の介護目標を“姿勢を低くし、目線を合わせ、敬語を使う”に決定している。職員は入居者の関心事を引き出し共に行動する支援に努めている。食事は職員手作りであり、食材は近隣スーパーへ入居者と一緒買い出しに出掛けている他、定期的に出外機会を多く持っており、入居者が季節の移ろいを感じることができるよう支援していることがわかる。運営面では、眠りスキャンや記録ソフトを導入し、ICT化に取り組んでいる。代表は、パソコン講習費用援助や資格取得、有給休暇の取得推進等、職員の負担軽減と職場環境改善に努めている。外国籍職員を含め、職員のチームワークは良く、法人看護師の24時間オンコール体制は入居者、家族、職員にとって安心感に繋がっている。理念をもとに入居者が地域の中で、穏やかに生き生きと、笑顔で過ごすことができるよう日々取り組んでいる事業所である。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・リビング・玄関に掲示しており、運営理念を毎朝唱和している。	運営理念“夕暮れ時にも輝く人生”を基に“安心・ゆっくり・自分らしく”という標語を掲げている。外国籍職員を含め、毎朝、論語を声に出して読む習慣があり、教を日々の支援に活かしている。職員は、入居者の興味や関心を引き出し一緒に行動することで、入居者の喜びに繋げ、理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への入会にて地域での出来事などを共有している。散歩などで交流を図っている。	中学校や特別支援学校、短期大学の福祉実習を積極的に受け入れている。町内会の回覧板は手渡して回し、清掃活動への職員参加や入居者との散歩時に挨拶を交わす等、近隣住民とは顔なじみである。地域ふるさと祭りに入居者の編み物作品を出展、見学する等、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設外や公園への散歩で理解を少しでも深めて頂くように発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を行い、いろいろな意見・希望を取り入れるようにしている。入居者様に関する情報の共有、参加者で意見交換をしている。	2ヶ月毎に、家族代表、民生委員、地域包括支援センターの参加で会議開催しており、入居者情報や行事報告の他、眠りスキャン導入や非常用発電機設置等、事業所の運営状況を伝えている。災害訓練に民生委員が立ち合う等、意見の反映例がある。ただし、参加していない家族への周知はこれからである。	運営推進会議での、事業所の活動報告や意見交換の様子を、参加していない家族にわかりやすく伝え、興味を持って貰うとともに、意見や要望を引き出し、サービス向上に活かすことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より密に取ってはいるが、必要に応じて連絡を取っている。生活保護の方が受診の時は病院での手続きがスムーズにできる様に連絡を取っている。	行政とは主にメールでのやりとりであり、研修案内を得て、職員がオンラインで受講している。介護保険更新手続きは、市担当窓口で行っている。入居者の受診時に手続きが必要な時は、事前に市担当課と連携する他、来訪がある。事業所の実情を伝える等、行政とは協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き全職員が理解している。	指針を整備し、身体拘束適正化委員会を法人管理者合同で3ヶ月毎に開催している。事業所は家族同意の下、センサーマットを使用しており、解除に向け職員間で検討している。年2回の研修にて職員の意識を高めており、言葉遣いは職員アンケートから抜粋し、入居者の尊厳を重視した支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が中心になり標語を作成し、見える場所に掲示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加する事が出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明を行い、理解・納得をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の会話を取り入れ、改善できるように努めている。	家族の面会は、居室で過ごすことができ、面会後に入居者の暮らしぶりを伝えている。家族に、担当する職員を伝えており、問い合わせがしやすいよう配慮している。聞き取った要望は、パソコン内に入力し、職員間で共有している。ホームページを開設する他、2ヶ月に1度の事業所便りには、入居者の近況報告を記載している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフミーティングなどで、職員の意見を聞く機会を設けている。	管理者は、気になる職員には、さりげなく声を掛け、悩み等を聞いている。今年初旬に眠りスキャンを導入する前に、職員から意見を聞く機会を設けている。また、有給休暇の消化を推進し、パソコン講習費用の援助も行っている。更に職員旅行を企画し、親睦を図っており、働きやすい職場環境となるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた社外研修への参加によりスキルアップできるよう援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会に参加し、質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者がアセスメントを取り、要望等をケアプランに反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事などに耳を傾け、希望に沿うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に一番必要としていることを見極め、入居時期や退院時期など一緒に考慮し、早く入居できるように病院や居宅等と相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーション大会やごみ箱折り、洗濯物干し・たたみなど職員と共同作業を行うことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ陽性者がいる期間は面会を禁止し、終息後は居室にて面会していただいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との電話など要望に応じられるようにしている。	入居者は、事業所の新聞を読んでおり、広告の通販に申し込むなど楽しんでいる。職員は、入居者の行きつけの美容室や食事処へ同行したり、親族の葬儀へ参列したこともある。洗濯物を取り込んだり、入居前から編み物が趣味である入居者が、職員の根気強い支援の下、セーター等を編んでおり、生活に張りを与えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声掛けを行い、リビングにて過ごして頂く。外気浴を行ったり、散歩やドライブにて景色を楽しまれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になれば積極的な関係は築いていないが、本人・家族から相談があれば支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から意向を把握し、買い物同行・散歩支援などケアプランに反映している。意思表示が困難な方は、その方の生活歴、ご家族からの情報を踏まえ、本人主体となれるような関わりに努めている。	起床や就寝の時間は、自由としており、夕食後、リビングでテレビを楽しむ入居者がいる。その日着る服は、殆どの入居者が自分で選んでいる。令和7年度の事業所の介護目標の中に“姿勢を低くし、視線を合わせ敬語を使う”を掲げており、日々の介護で実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族や書類を通じて情報の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、排泄、入浴などで心身状態を把握し、日常の変化を職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族から要望を聞き取り、介護計画を作成している。	計画作成者は、入居前に自宅訪問し、アセスメントを基に6ヶ月の介護プランを作成している。毎月のモニタリングやカンファレンスでの職員意見を総括し、担当者会議にて見直しに繋げている。散歩や編み物、手伝い等、本人のQOLに繋がる目標設定となっている。計画は、本人・家族の希望を聞き取り、反映し同意を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録、介護計画などで職員も情報を共有し実践している。また、ミーティングで見直しを行い、現状に応じた介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合った柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しており、民生委員が運営推進会議に出席された際は情報交換を行っている。コロナの感染状況をみて開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは連絡を密に行い、状況によってはスタッフが家族に同行し支援を行っている。	月1回、協力医の往診があり、かかりつけ医や他科受診、精密検査等に家族が付き添う際も、職員が同行している。受診結果は、特変時は家族へ連絡し共有している。法人看護師は、毎月1回、入居者の体調管理と職員への助言や相談に応じ、24時間のオンコール体制にて、主治医との連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきを記録し、特変時には看護師へその都度相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師やソーシャルワーカーとの情報交換を行い、スムーズな入退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者、家族、主治医、看護師と話し合いをし、方針を決めている。看取りの為のカンファレンスを行い、職員間で情報を共有している。	契約時に、事業所の重度化対応や看取り指針を説明し、家族に同意書を得ている。その後、入居者の心身の状況悪化に伴い、主治医から家族へ説明があり、方針を決めている。近年、事業所での看取り支援の経験はないものの、過去には、看取り支援後のグリーフケアを実施し、職員へのサポートを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナが5類となったため社内・社外の研修に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練は年3回行っている。実践的な訓練の為に防災委員が消防局の研修に参加し、煙を発生させた状況での避難誘導や消火器使用を学び、職員へ周知している。	年3回、夜間想定1回を含む火災訓練を実施している。BCPは作成済みで、停電に備え、非常用発電機を設置し、個人データはパソコンで管理している。緊急通報に近隣住民の登録を行い、火災訓練に民生委員の参加があつている。ただし、コロナ禍以降、消防署や消防団との連携がない。	全国各地で多発する災害を、自分ごととして捉え、入居者・職員の命を守る為にも、消防署や消防団等の専門的視点の意見を取り入れ、災害に備えることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束研修の際に、スピーチロックについて話し合うなど、無意識に口にしていないか尊厳や人格を守り考える場を設けている	全職員が入居者の人格を尊重することを真摯に受け止めていることが、接遇マナー研修の他、身体拘束・虐待防止研修の感想文から窺える。職員の採用時に、守秘義務の誓約書の提出を義務付けている。ホームページや便りに掲載する入居者の写真については、家族から書面で許可を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で希望や要望を聞き取り、買物支援や自宅までドライブに出かけるなどの外出支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望を叶えられるように時間を考え、その方のペースで支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望があれば美容室へ同行したり、白髪染めをするなど支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや配膳・下膳など、個々の力に応じた役割を持っていただいている。また、家庭菜園で野菜を収穫し、会話する事で食事を楽しんでいただいている。	食事は、冷蔵庫にある食材で、職員が調理しており、とろみ食にも対応している。リビングから台所の様子が見え、調理の香りが漂ってくる。入居者の食べたいものを聞き取り、刺身やパン食もメニューに加えている。誕生日は、ショートケーキで祝ったり、正月の手作りのお節等で食卓を囲み、家庭的な温かみのある食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜・肉・海藻・大豆食品を中心に栄養バランスを考え、食事量・水分量を記録し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシやスポンジなど口腔状態に応じたケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、日中はトイレでの排泄を支援している。	介護度の高い入居者であっても、昼間はできる限り、トイレでの排泄を基本としている。職員会議では、入居者の問題点等を共有している。現在、夜間は、パッドの厚さを変えて、熟睡できるように配慮している。夜間のみおむつを使用する人以外は、トイレでの排泄を維持できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜をできるだけ多く取り入れ、夏場はフルーツ寒天で便秘予防と水分の摂取に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って支援できるよう努めている。散歩後に入浴の希望があった時や、排泄の失敗等があった時はその都度入浴を行っている。	日曜日以外は入浴の準備をし、週に2、3回の割合で支援している。介護度が高い入居者には、シャワー浴で対応している。入浴拒否があった場合は、職員が声掛けを工夫し、まずは浴室まで誘導している。同性介助の希望も聞き取っている。冬場は、脱衣所にヒーターを置き、寒暖差に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息や安眠を支援している。必要に応じて冷暖房を使用し、安眠に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を導入し、薬剤師と処方箋を職員全員が確認し、薬の変更があった時も情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買物同行や洗濯物干し・たたみ、テーブル拭き等役割を持ってもらい、個々が出来る事で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により散歩や外食、買い物、動植物園などの外出支援を行っている。	日常的に町内を散歩したり、春先には近くの川沿いに芽吹いた草花を見に出掛けることもある。スーパーへの買い出しは、車椅子の入居者も一緒に出掛けている。系列の施設と合同で、マイクロバスで桜の名所や動植物園へ出掛ける他、定期的に外食にも出掛けており、入居者の気分転換を図るために積極的に外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物は入居者様と買い物に行き、好きなものを購入して頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて家族や親しい人に電話をかけたり、取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるように、室内の温度・湿度・生活音に気を配っている。共有空間に季節ごとの行事の飾りつけをしたり、庭先の花を玄関やテーブルに飾り、季節を感じて頂くように努めている。	リビングは適度な日差しで明るく、季節毎の飾り付けや生け花で、季節を感じることができる。職員は調理しながら、入居者の様子に気を配る等、家庭的な普段の暮らしが確認できる。毎日の清掃や温度管理で清潔を保持し、入居者が安心して寛んだり、編み物やテレビ視聴ができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを設置し外気浴や会話を楽しんでいただいている。リビングにもソファを置き、居心地のよい空間づくりを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やお位牌を居室へ置かれ、いつも一緒に過ごされているような、居心地のよい居室作りに心掛けている。	居室ドアの表札は、個人としての尊厳が守られ、室内は好みの毛布や家具、馴染みの化粧品や時計等を置き、落ち着いた佇まいである。床に緩和シートを張り、安全に配慮した居室もある。入居者はテレビで時代劇を視聴したり、寛いだりと自由な時間を過ごしている。職員が掃除や換気を行い、居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋ごとに表札を飾り、案内板や手すりなどで自立した安全な生活が送れるよう工夫している。		